

授業科目名 <英訳>		E B M・診療ガイドライン特論 Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 宮崎 貴久子 大阪高等裁判所 判事 西岡 繁靖 国立成育医療研究センター研 究所・連携大学院客員教授 森 臨太郎				
配当 学年	専門職	単位数	1	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特論	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<ul style="list-style-type: none"> 臨床医療の基盤となりつつあるEBM（根拠に基づく診療）と、EBMを用いた診療ガイドラインの歴史、国内外の動向と展望を学びます。 実習を通して、近年大きく進歩しつつある診療ガイドラインの評価・作成の方法の実際を経験します。 患者・家族とのコミュニケーション、法的な意味合い、医療資源の配置など社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を考えます。 <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> パワーポイントスライドによる講義と実習 一部グループワークあり 											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> EBMと診療ガイドラインの関係を説明できる。 EBMを用いた診療ガイドラインの作成・評価の概要を理解し、実施できる。 社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を説明できる。 											
[授業計画と内容]											
第1回 10月2日 EBMと診療ガイドライン：国内外の動向と展望 第2回 10月9日 診療ガイドラインの評価 第3回 10月16日 診療ガイドラインの作成（1） 第4回 10月23日 診療ガイドラインの作成（2） 第5回 10月30日 診療ガイドラインからQuality Indicator (QI)へ 第6回 11月13日 診療ガイドラインと患者の視点：shared decision-makingを考える 第7回 11月20日 診療ガイドラインの法的位置づけ 第8回 11月27日 診療ガイドラインと医療者と患者のコミュニケーション：臨床シナリオを通して											
[履修要件]											
MCRコースの履修生と受講生に限定（MCR限定）											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
毎回の小レポート提出80%、最終日の発表20%											
E B M・診療ガイドライン特論(2)へ続く↓↓↓											

E BM・診療ガイドライン特論(2)

[教科書]

特になし

[参考書等]

(参考書)

中山健夫, 津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)
『Minds診療ガイドライン作成の手引き2014年版』 (医学書院)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

予習より復習に十分時間を取ること。

(その他 (オフィスアワー等))

受講生には診療ガイドラインを適切に利用するだけでなく、近い将来、各領域の診療ガイドラインを作る立場になって頂くことを期待しています。

人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。